



●64回●

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

奈土の盆綱

威勢のいい掛け声で練り歩く



昌福寺山門での盆綱作り

太鼓を先頭に子どもたちが、藁で編んだ綱を持ちながら「ワッショイボンボン ワッショイボンボン」と元気の掛け声を響かせます。これは毎年8月13日～15日、大栄地区奈土の人々が地域ぐるみで行っている伝統行事の一つ盆綱です。

盆綱とは、龍や蛇に見立てた大綱を作り、

これに引き綱を付けて子どもたちが引き回し精霊を供養する行事のこと。しかし、奈土地区では昌福寺に虚空蔵菩薩様が祀られていることから、この綱をウナギだと見立てている人が少なくありません。ウナギは虚空蔵菩薩様の乗り馬・化身だと伝えられているからです。

盆綱行事は13日に昌福寺境内で綱作りが行われ、子どもたちが担ぐ約5mの綱と、昌福寺本堂入口に飾る約25mの2本の盆綱を作ります。翌日の夕方、小学生から中学



子どもたちを迎える新盆宅

生までの男子がお寺に集まり、境内の墓地を7周後、地区の家々に向けて出発。14日は奈土5区、15日は

同6区を回り、約100戸あるすべての家を練り歩きます。

家に着くと「ワッショイ、ワッショイ」と威勢よく盆綱をもみ、また、新盆宅に向かうときは「シンボン トウロウ」と言いながら歩きます。すべての家を回りお寺に帰ってくるのは夜の9時を過ぎたころです。

以前は盆綱が終了すると、この綱を土俵にして子ども相撲が開かれ、地区全体の娯楽として昭和30年代後半まで行われていました。バケツや歯磨き粉などの家庭用品、文房具などの賞品が出るので、他の地区からの飛び入りもあったほど。櫓が建ち、露店も出るなど大変なにぎわいでした。また、7月13日には、オタチ(木の刀)を担ぎ家々を回り悪霊払いをする行事も行われています。子どもたちが中心となる伝統行事が二つもあるのは、市内では非常に珍しいこと。少子化・生活スタイルの変化などでこうした行事が消えていく中、ふるさとの古くから伝わる大切な行事を伝え残そうとする人々に支えられ、連綿といきづいています。



のどかな田園地帯を「ワッショイボンボン」と声を掛けながら盆綱を引く子どもたち

編集後記

7月～8月にかけてさまざまな夏祭りが行われ広報課でも各地へ取材に。これまで知らなかった地域独特の行事が数多くありました。その行事を陰で支えているのは、いわゆる「団塊の世代」と呼ばれている人たち。聞けば「地元の習慣や風俗は絶やしたくないからね」と、とても意気盛んです。当時、独特の造語やファッションなどを生み出す一方、会社人間などともいわれた世代。そんな彼らをターゲットにした新講座「セカンドライフ支援セミナー」が公民館で始まります。多種多様な内容で、これまで蓄えた持ち前の力に加え更なる技能を身に付ける絶好の機会です。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。